

介護老人保健施設オアシス21

症 例 概 要 入所者： 女性 80代 要介護度 1

病名：うつ病 高血圧症 高コレステロール血症 糖尿病

経過：遺跡発掘の仕事を退職後、うつ病発症。平成16年A病院へ入院。退院後も
気力低下し会話や台所が億劫になる。

不眠がつづき自殺念慮も口にするようになり令和4年5月B病院へ再入院。

その後自宅へ戻り、ご夫婦2人暮らしで、夫が家事全般を担ってもらいながら生活を
していた。

しかし、夫がcovid-19感染のため入院となり、ご本人1人では独居生活困難なため、
他施設に短期入所を利用するも、夫が居ない事で落ち着かず、当施設を紹介され
入所する。当施設で生活リハビリをしながら生活の場を提案。理念にそった親身な対
応を心掛け新たな生活のスタートがきれるよう支援し、前むきに生活できるようになった
事例。

内 容

当初は環境の変化に不安な様子が見受けられ、「何もわからない」と繰り返し話されていた。まずは施設生活に慣れて頂けるよう、ご本人専用の日課表を作成し、1日のスケジュールを確認しながら、「大丈夫ですよ」、「一緒にしましょう」と統一した声掛けを続けていました。徐々に施設生活にも慣れて頂き、明るい笑顔がみられるようになってきた中、施設内でcovid-19クラスターが発生し、居室内のみで療養を余儀なくされました。一時、抑うつ状態となってしまいましたが、クラスター中でも何か出来ることはないかとスタッフ間で話し合い、居室ごとに集団体操を行うことにしました。

始めは「こんなことしたってどうしようもないよ」と消極的でしたが、毎日続けることで、同室者との絆も深まり、クラスターを乗り越えることが出来ました。

クラスターの影響で延期になっていましたが、夫も当施設へ入所されることになりました。感染対策のため、新規のご利用者は入所後数日間は居室内で過ごして頂いています。そのため、感染対策が終了するまで、夫が入所されたことは妻には内緒にしていました。前院入院中より、自主練習に励んでいたという夫。「早く元気になって妻を支えたい」と感染対策中も居室内で歩行練習をされていました。

お二人の再会を盛り上げたいとスタッフからの提案があり、夫にもお手伝いを依頼すると、快く引き受けて下さりご本人を驚かせるため、風船を膨らませたり、飾りつけを手伝って頂きました。いよいよ、ご夫婦再会の日。スタッフがご本人を夫の居室へ案内しました。

ご本人はとても驚いていましたが、夫から手を差し出し自然と握手、感動の再会を果たしました。再会の記念撮影をし、ご夫婦水入らずの時間を楽しんで頂きました。

夫との再会を機に、ご本人から「いつもお世話になってばかりだから、何か私にも出来ることはないだろうか。」と意欲的な発言が聞かれるようになりました。そこで、生活リハビリとして、ご利用者の食事席のテーブル拭きや調理レクで夫へホットケーキの差し入れをすることができました。始めは「私に出来るかな」と不安な様子があり、スタッフが見守りながら取り組んで頂きました。今では「一人でも何とかなるでしょ」と前向きな言葉が聞けるようになりました。ご本人のことを心配していた夫も「安心しました。自分もますます頑張らなければ」とより一層リハビリに励んで、新たな生活の場へ夫婦揃って入所となりました。

理念にそった親身な心のケアが夫婦の生きる希望へとつながった事例と思います。これからもご夫婦の時間を共有しながら、療養生活を楽しんで頂けるようお手伝いさせて頂きたいと思います。